

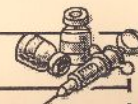
平成23年1月17日から0歳～4歳児を対象に 小児用肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン の費用を全額助成します！



広島市では、平成23年1月17日から、0～4歳児を対象に、小児用肺炎球菌ワクチンとヒブワクチンの予防接種費用の全額助成を開始します。

小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンは予防接種法に基づかない、任意の予防接種です。効果と副作用をご理解いただき、医師と相談した上で接種を受けてください。

※このワクチンを接種後、違うワクチンを接種する場合は、**6日以上の間隔**をあける必要があります。ただし、このワクチンは、医師が必要と認めた場合は、**他のワクチンと同時に接種することもできます**ので、かかりつけの医師と相談の上、**接種スケジュールを決めてください**。（特に、小児用肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン・三種混合ワクチンは、接種する時期が近く、回数も多いため、忘れないようにスケジュール管理をしましょう。）

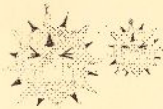


小児用肺炎球菌ワクチン

【対象年齢】 2か月齢～4歳（5歳未満）
【接種を受けられる所】 広島市内の医療機関
（事前に「広島市の小児用肺炎球菌ワクチン助成対象」であることを伝え、予約してください）
【医療機関に持っていく物】
母子健康手帳、住所・年齢の確認できるもの

【接種スケジュール】

接種開始時期	1回目	2回目	3回目	4回目
2か月齢～6か月齢	初回	27日以上の間隔で接種	27日以上の間隔で接種（12か月齢までに）	60日以上の間隔で（12～15か月齢）
7か月齢～11か月齢	初回	27日以上の間隔で接種	60日以上の間隔で、1歳以降に接種	
1歳～1歳11か月	初回	60日以上の間隔で接種		
2～4歳	1回			



【肺炎球菌について】

肺炎球菌は、特に乳幼児においては、血液の中に侵入し、菌血症や髄膜炎などの侵襲性感染症の原因となることがあります。

国内では、主に5歳未満児に、髄膜炎が約150人、髄膜炎以外の侵襲性感染症が約1000人を超えると推定されています。肺炎球菌性髄膜炎になると、後遺症が残ることや命を落としてしまうことがあります。また、最近では、薬の効かない肺炎球菌が増えており、治療が困難となることもあります。

ヒブワクチン

【対象年齢】 2か月齢～4歳（5歳未満）
【接種を受けられる所】 広島市内の医療機関
（事前に「広島市のヒブワクチン助成対象」であることを伝え、予約してください）
【医療機関に持っていく物】
母子健康手帳、住所・年齢の確認できるもの

【接種スケジュール】

接種開始時期	1回目	2回目	3回目	4回目
2か月齢～6か月齢	初回	4～8週間隔で接種	4～8週間隔で接種	約1年後に接種
7か月齢～11か月齢	初回	4～8週間隔で接種	約1年後に接種	
1歳～4歳	1回			



【ヒブについて】

ヒブとは、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型という菌のことであり、乳児や小児の敗血症や髄膜炎、急性咽頭蓋炎などの侵襲性感染症の原因となることが多くあります。

国内では、ヒブによる髄膜炎が毎年推定で400例程度発生していますが、重度の後遺症（発達、知能、運動障害など）が残ってしまうことや、命を落としてしまうこともあります。また、最近では、薬の効かないヒブが増えており、治療が困難となることもあります。

～ご不明な点はお住まいの区の保健センター（健康長寿課）へお問い合わせください～

中保健センター 504-2528	西保健センター 294-6235	安芸保健センター 821-2808
東保健センター 568-7729	安佐南保健センター 831-4942	佐伯保健センター 943-9731
南保健センター 250-4108	安佐北保健センター 819-0586	保健医療課 504-2622

広島市外にお住まいの方は、お住まいの市町の予防接種担当へお問い合わせください。